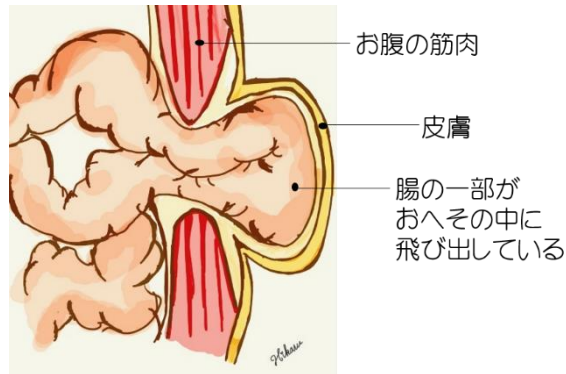


当クリニックではさい臍ヘルニア（でべそ）の圧迫療法を行っています

○臍ヘルニア（でべそ）とは



- 生後1か月頃からだんだん大きくなり、2～3か月頃に最大になります。
- 1歳までに80%、2歳までに90%が自然に治りますが、10%は2歳でも治らず手術が必要となります。
- 大きなヘルニアでは、治ったあとも伸びた皮膚が皺しわになって残ることがあります。

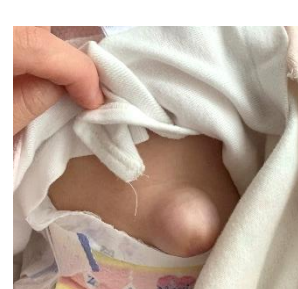
○当クリニックでの症例紹介



（生後21日目）



治療開始前（生後39日目）



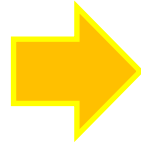
生後 20 日頃からだんだんお臍が出てきて、産院の1か月検診では自然治癒するので様子を見ていいと言われましたが、あまりにも大きいので心配して当院を受診されました。初診時（生後39日目）、臍の横幅が約 2.5 cmの「巨大な」臍ヘルニアが認められました。



脱出したヘルニアをお腹の筋肉の間に入れ込み、ヘルニアの大きさによって上からガーゼ小球を押し入れ左右の皮膚を引き寄せてこの状態を保つようテープを貼ります。皮膚の状態を確認しながら、テープの張り替えのため毎週来院していただきます。



(治療前)



(治療開始約2か月後)

圧迫期間は臍ヘルニアの大きさなどで変わりますが、早ければ1か月で突出がなくなります。泣いて腹圧がかかってもお臍が飛び出てこない状態を目安に、ご家族様と相談しながら治療終了となります。

臍ヘルニアは自然に治る可能性が高いので、圧迫療法は必ずしも必要ではないかもしれませんが、しかし、圧迫療法によって自然に放置するよりも短い期間で良くなり、手術が必要となる頻度が減る、最終的な「へそ」の形がきれいになる、などの効果が期待されます。

泣く度に破裂しそうなお臍を見てドキドキする…
このまま大きくなり将来手術をしないといけなくなるのか不安…
外でオムツを変えるときに周りの目が気になる…
他人から何度もお臍のことを指摘されるのがつらい…
将来でべそが残って本人が気にしないか心配… など

臍ヘルニアの圧迫療法は、できるだけ早期（生後2～4か月くらい）に開始することをお勧めします。ご心配な方はご相談ください！

